

教科(科目)	農業（作物）	単位数	4単位	学年(コース)	2学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。

- （1）作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- （2）作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- （3）作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1	4 5	第1章 作物生産の役割と動向 1 作物とは	・作物が私たちの生活にどのように関わっているかを学ぶ。 ・作物のおい立ちと品種改良の重要性を理解する。	23	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		2 作物栽培の動向	・世界と日本の作物の生産、輸出入と消費の現状を理解する。		○	○		
		作物(イネ)の栽培管理実習 種もみの準備 本田の準備 播種・育苗・田植え	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	第2章 作物の特性と栽培技術 1 作物の種類と特徴 2 作物の生育と生理	・作物には用途や栽培上の特徴からいろいろな分類のしかたがあることを学ぶ。 ・作物の一生を理解する。	27	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
2	8 9 10	作物(イネ)の栽培管理実習 水管理 生育調査	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。 イネの生育状況を調査し、生育時期ごとの変化や特徴をとらえる。		○	○	○	
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
	8 9 10	第2章 作物の特性と栽培技術 3 栽培環境と生育の調節	・環境条件が作物の生育にどのような影響を与えるかを学ぶ。 ・作物を栽培するにあたって考えなければな	27	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子

			らない条件を学ぶ。					(行動の確認)
		作物(イネ)の栽培管理実習 収穫・調製 収量調査	収量構成要素の値を算出し、収量や品質を左右する条件とイネの生育との関わりについて理解する。		○	○	○	
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10	第3章 イネ	・世界と日本のイネの種類や栽培の現状を学ぶ。	31	○	○		レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	11	1 栽培的特性	・イネの一生について形態・生理・生態的特徴を学び、米ができるまでの成長過程を理解する。		○	○		
	12	2 栽培管理			○	○		
		作物(イネ)の栽培管理実習 生育調査・収量調査のまとめ	収量や品質を左右する条件と生育との関わりについて理解する。		○	○	○	
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1	第3章 イネ	・実際に栽培計画と調査・研究計画を立てることができる。	27	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	2	3 栽培計画と評価	・日本の稲作経営の状況を理解する。		○	○	○	
	3	4 農業経営の特性			○	○	○	
		作物(イネ)の栽培管理実習 本田の準備 種もみの準備	生育段階に応じた栽培管理の方法を学ぶ。		○	○	○	
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 140時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。 (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4	育苗の準備	・育苗ハウスの準備	25	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	5	播種	ハウス内の整地					
	6	本田の準備	プール育苗床の作成					
	7		・播種					
		移植（田植え）	・土壌改良材等散布					
			・トラクタの操作					
		除草剤散布	・田植機による移植					
		中干し・溝切り	・育苗資材等や田植機の洗浄と整理					
			・ジャンボ剤等の投げ込み					
			・中干し					

			・溝切り					
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9 10 11 12	収穫・調整の準備 収穫 調整 精米・袋詰め 販売 収量調査	・コンバインによる収穫 ・乾燥・調整・包装、農産物検査 ・精米・袋詰め ・販売 ・乾燥調整施設の清掃 ・籾殻の散布 ・収量調査	29	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	定期考査(2学期末)		1	○	○			
3	1 2 3	本田の管理 今年度のまとめ	・排水溝の準備 ・生育状況、収量結果から分析し、 まとめを実施 ・分析結果から次年度の改善点、 要望をまとめる	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	定期考査(学年末)		1	○	○			

計 70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（作物）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。 (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4 5	栽培管理	・種籾の準備：塩水選、温湯消毒、 浸種、催芽	23	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		苗の生育	・育苗：プールの作成、整地 ・水田準備：基肥散布、耕起					
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	イネの移植	・田植え作業の実践	27	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		本田の管理	・移植後の水管理					
		生育調査	・中干し、溝切り					
		定期考査(1学期末)		1	○	○		

2	8 9 10	追肥、病害虫の防除 収穫と調製	・収量構成要素 単位面積あたりの植え付け株数 平均一株穂数 平均一穂もみ数 登熟歩合 玄米一粒重 ・収穫、調整：コンバイン操作、乾燥、調整、袋詰め	27	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	定期考査(2学期中間)			1	○	○		
	10 11 12	品質と高価値化 収量調査 品質調査	・米の品質：完全米、不完全米 (腹白米、背白米、心白米等) ・米の食味調査	31	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	定期考査(2学期末)			1	○	○		
3	1 2 3	栽培評価 稲作経営の特性 流通と経営	栽培の評価：結果と考察 稲作経営の特性：米の流通、新しい経営を目指して	27	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	定期考査(学年末)			1	○	○		

計 140時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年 生物資源科 作物専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。 (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4	育苗の準備	・育苗ハウスの準備	38	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	5	播種	ハウス内の整地					
	6	本田の準備	プール育苗床の作成					
	7		・播種					
		移植（田植え）	・土壌改良材等散布					
			・トラクタの操作					
		除草剤散布	・田植機による移植					
		中干し・溝切り	・育苗資材等や田植機の洗浄と整理					
			・ジャンボ剤等の投げ込み					
			・中干し					

			・ 溝切り					
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8	収穫・調整の準備	・ コンバインによる収穫 ・ 乾燥・調整・包装、農産物検査	44	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	9							
	10	収穫	・ 精米・袋詰め ・ 販売 ・ 乾燥調整施設の清掃					
	11							
	12	調整	・ 籾殻の散布					
		精米・袋詰め	・ 収量調査					
		販売						
	収量調査							
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1	本田の管理 今年度のまとめ	・ 排水溝の準備 ・ 生育状況、収量結果から分析し、 まとめを実施 ・ 分析結果から次年度の改善点、 要望をまとめる	20	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	2							
	3							
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 105時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（野菜）選択	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（作物専攻）
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 野菜について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一 学	4	第1章 野菜生産と役割 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費	- 野菜の種類と利用を学ぶ。 - 野菜に分類について学ぶ。 - 消費動向の変化を学ぶ。 - 野菜の消費量を学ぶ。		○	○	○	レポート （記述の確認） 実習の様子 （行動の確認）
	5	3 野菜の生産と供給	- 消費の多様化を学ぶ。 - 野菜の生産と供給のしくみ - 野菜栽培と生産動向を学ぶ。 - 野菜の輸入と輸出を学ぶ。 - 野菜の流通を学ぶ。	24	○	○	○	

期	6		1 学 期 期 末 考 査					
	7		・知的財産の保護を学ぶ。					
二 学 期	9	4 野菜の安産性	・安全、安心な野菜。 ・環境に優しい野菜栽培を学ぶ。 ・生活のなかの野菜栽培を学ぶ。 ・野菜の生育を学ぶ。 ・種子と発芽を学ぶ。 ・茎と葉の成長を学ぶ。		○	○	○	
		第2章						
		1 野菜の生育と生理						
	10		2 学 期 中 間 考 査					
期			・光合成のしくみと物質の生産。 ・根の発達と肥大を学ぶ。 ・葉菜類の花芽形成と抽苔。 ・果菜類の花芽分化と果実発育。 ・休眠について理解する。 ・温度環境とその調節を学ぶ。	36	○	○	○	レポート (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	11	2 野菜の栽培環境と生育調節 葉や花茎を利用する野菜の栽培						
			2 学 期 期 末 考 査					
	12		・専攻の学習内容、実験 ・風、ガス環境とその調節を学ぶ。 ・地下茎の環境とその調節を学ぶ。		○	○	○	
三 学 期	1	3 人工環境における栽培技術	・合理的作付けと輪作を理解する。 ・露地栽培を理解する。 ・施設を利用した栽培 ・養液栽培を理解する。	10	○	○	○	
			3 学 期 期 末 考 査					

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。

5 担当者からの一言

野菜の授業（実習）を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術や実験・実習、加工・製造等を学ぼうとする姿勢が大切である。

教科(科目)	畜産	単位数	4単位	学年(コース)	3学年（動物専攻）
使用教科書	農業718 「畜産」 実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい労働観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、その特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

- (1) 各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に授業・実習に参加するとともに知識・技術について理解する。
- (2) 各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家畜に対し適切な管理法が実践できる。
- (3) 家畜の健康状態を観察し、状況を把握する能力を身につける。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	授業計画	学習内容	時 間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1 学 期		家畜の飼育	肉牛の特性	10	○		○	授業補助プリント
		肉牛の飼育	乳牛の実験・実習・観察	8	○		○	(記述の点検)
			肉牛の実験・実習・観察 (家畜審査競技の学習)		○	○	○	
			肉牛の施設・設備とその 利用	4	○		○	
			肉牛の繁殖と育成	20	○		○	期末考査

					○		○	
					○		○	
					○		○	
2 学 期		家畜と飼料	肉牛の繁殖と育成	10	○		○	授業補助プリント (記述の点検)
			肉牛の肥育	8	○		○	
			肉牛の病気と予防	10	○		○	
			肉牛の経営	4	○		○	
			家畜の消化器官と飼料の消 化・吸収	16	○		○	
					○	○	○	期末考查
3 学 期		家畜の飼育	飼料の特性と給与	12	○	○	○	授業補助プリント (記述の点検)
			飼料作物の特徴と草地管理	12	○		○	
			乳牛の特性	4	○		○	
			乳牛の飼育管理	10	○		○	
					○	○	○	学年末考查

計 140 時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・学校で飼育する家畜に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各家畜の意義や役割を理解している。 ・各家畜に対し、基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	・畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、畜産に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	・家畜の飼育と畜産経営に関する諸課題について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指し主体的に取り組む姿勢を身につけている。 ・協調性を持って実習に臨む姿勢がある。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 授業ごとにレポート提出があります。
- ・ 長期休業中に実習があります。
- ・ 農業クラブ主催の家畜審査競技県大会には全員参加します。

6 担当者からの一言

- ・ 年間をとおり、季節・時期により特別実習を行います。
- ・ クラスルーム・ロイロノートなど積極的に利用していきます。

(担当： 櫻井：梅川)

教科(科目)	畜産	単位数	4単位	学年(コース)	2学年（動物専攻）
使用教科書	農業718 「畜産」 実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー（共通の追加項目）

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい労働観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、その特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

(2) 各家畜の特性や生態・習性に関心を持ち、意欲的に授業・実習に参加するとともに知識・技術について理解する。

(2) 各家畜の特性に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、家畜に対し適切な管理法が実践できる。

(4) 家畜の健康状態を観察し、状況を把握する能力を身につける。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1 学 期		家畜の生理・生態と環境	家畜の家畜化	10	○		○	授業補助プリント (記述の点検)
			乳牛の実習・実験・観察	8	○		○	
			肉牛の実習・実験・観察 (家畜審査競技の学習)		○	○	○	
			ニワトリの品種の選び方	24	○		○	期末考査
			ブタの品種の選び方		○		○	
			乳牛の品種の選び方		○		○	

		養鶏	肉牛の品種の選び方 ニワトリの特性 種卵～ふ化		○ ○ ○		○ ○ ○	
2 学 期		養鶏	ニワトリの特性 施設・設備とその特徴 繁殖の生理 育すう 産卵鶏の飼育管理 予防衛生と病気 養鶏の経営 ニワトリの実習・実験・ 観察（産卵鶏の解剖）	42	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業補助プリント (記述の点検) 期末考査
3 学 期		養豚	ブタの特性 養豚の施設・設備とその 利用 ブタの繁殖 子豚の育成 肉豚の肥育 豚肉の流通 ブタの病気と予防衛生	38	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業補助プリント (記述の点検) 学年末考査

計 140 時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・学校で飼育する家畜に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、各家畜の意義や役割を理解している。 ・各家畜に対し、基本的な技術を身につけ、その技術を適切に活用している。	・畜産に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、畜産に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	・家畜の飼育と畜産経営に関する諸課題について興味・関心を持ち、その改善・向上を目指し主体的に取り組む姿勢を身につけている。 ・協調性を持って実習に臨む姿勢がある。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 考査・レポート・授業態度 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ 授業ごとにレポート提出があります。
- ・ 長期休業中に実習があります。
- ・ 農業クラブ主催の家畜審査競技県大会には全員参加します。

6 担当者からの一言

- ・ 年間をとおり、季節・時期により特別実習を行います。
- ・ クラスルーム・ロイロノートなど積極的に利用していきます。

(担当： 櫻井：梅川)

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	4単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 野菜について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一 学	4	第1章 野菜生産と役割 1 野菜の種類と特徴 2 野菜の消費	- 野菜の種類と利用を学ぶ。 - 野菜に分類について学ぶ。 - 消費動向の変化を学ぶ。 - 野菜の消費量を学ぶ。		○	○	○	レポート （記述の確認） 実習の様子 （行動の確認）
	5	3 野菜の生産と供給	- 消費の多様化を学ぶ。 - 野菜の生産と供給のしくみ - 野菜栽培と生産動向を学ぶ。 - 野菜の輸入と輸出を学ぶ。 - 野菜の流通を学ぶ。	52	○	○	○	

期	6		1 学 期 期 末 考 査					
	7		・知的財産の保護を学ぶ。					
二 学 期	9	4 野菜の安産性	・安全、安心な野菜。 ・環境に優しい野菜栽培を学ぶ。 ・生活のなかの野菜栽培を学ぶ。 ・野菜の生育を学ぶ。 ・種子と発芽を学ぶ。 ・茎と葉の成長を学ぶ。		○	○	○	
		第2章						
		1 野菜の生育と生理						
	10		2 学 期 中 間 考 査					
期			・光合成のしくみと物質の生産。 ・根の発達と肥大を学ぶ。 ・葉菜類の花芽形成と抽苔。 ・果菜類の花芽分化と果実発育。 ・休眠について理解する。 ・温度環境とその調節を学ぶ。	64	○	○	○	レポート (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	11	2 野菜の栽培環境と生育調節 葉や花茎を利用する野菜の栽培						
			2 学 期 期 末 考 査					
	12		・専攻の学習内容、実験 ・風、ガス環境とその調節を学ぶ。 ・地下茎の環境とその調節を学ぶ。		○	○	○	
三 学 期	1	3 人工環境における栽培技術	・合理的作付けと輪作を理解する。 ・露地栽培を理解する。 ・施設を利用した栽培 ・養液栽培を理解する。	24	○	○	○	
			3 学 期 期 末 考 査					

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。

5 担当者からの一言

野菜の授業（実習）を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術や実験・実習、加工・製造等を学ぼうとする姿勢が大切である。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年野菜
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
一学期	4	春夏野菜の栽培管理収穫 接ぎ木等 キュウリ トマト ジャガイモ ナス	播種、ポット上げ、たい肥散布、基肥、定植、追肥、かん水、 敵芯、整枝、除草、病害虫防除、 販売実習、野菜の撤去等。	26	○	○	○	
	5	ピーマン スイートコーン オクラ アマナガトウガラシ	・各野菜の栽培方法や管理技術を学ぶ。 ・各野菜の収穫・調整方法を学ぶ。 ・病害虫について学ぶ。 ・栽培管理を記録する習慣を					

	6		身に付ける。					
	7							
	期 末 考 査							
二 学 期	8	秋野菜の栽培管理収穫 キャベツ ハクサイ ブロッコリー カリフラワー	播種、ポット上げ、たい肥散布、基肥、定植、追肥、かん水、 敵芯、整枝、除草、病害虫防除、 販売実習、野菜の撤去等。 ・各野菜の栽培方法や管理技術を学ぶ。 ・各野菜の収穫・調整方法を学ぶ。 ・病害虫について学ぶ。 ・栽培管理を記録する習慣を身に付ける。	30	○	○	○	
	9	サトイモ ハウレンソウ ネギ						
	10	セルリー ニンニク サトイモ						
	11	サツマイモ 中玉トマト						
	期 末 考 査							
	12							
三 学 期		施設での栽培管理 ミニトマト 葉物野菜 接ぎ木育苗 ナス	・施設栽培の管理技術を学ぶ。 ・露地栽培との違いを学ぶ。 接ぎ木育苗を行い、来春の準備をする。	14	○	○	○	
	1							
	2	春夏野菜の播種栽培管理						
	学 年 末 考 査							
	3							

計 7 0 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜の基本的な栽培管理など野菜に関する基本的な知識や技術を栽培実習において正しく技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理などについて思考を深め、その生育状況に応じた栽培管理や課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性などに興味や関心を持ち、野菜の知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、栽培実習を通じて主体的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果、レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・
--

6 担当者からの一言

実際に農場で作物を育て、日々成長する作物の調査・観察をととして作物から自分自身が学ぶ姿勢が大切となります。愛情を込めて作物を育て、積極的に作物へ関わって欲しいと思います。そして、農業の持つ魅力を自分自身の肌で感じ取ってもらいたいと思います。 (担当：)
--

教科(科目)	農業（野菜）	単位数	4単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	「野菜」実教出版				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 野菜について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
--

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
一	4	第3章 野菜の品種改良と繁殖 1 品種改良の目的と方法 2 育苗の目的と方法	・品種改良の歴史と目的について学ぶ ・品種改良の方法を学ぶ。 ・育苗の意義と良苗の条件について学ぶ。 ・育苗、苗生産の歴史と現状について理解する。		○	○	○	レポート （記述の確認） 実習の様子 （行動の確認）

学 期	5	3 育苗技術の実際と応用	・野菜苗の育苗方法について理解する。 ・育苗培地の種類と作成法について理解する。 ・種まき及び個々の育苗管理技術について学ぶ。 ・つぎ木育苗技術について理解する。	52	○	○	○	
	6				○	○	○	
		1 学 期 期 末 考 査						
	7				○	○	○	
二 学 期	9		・セル成型苗生産とその利用 ・栄養系生産とバイオテクノロジーを学ぶ。 ・企業による苗生産、苗販売。 ・企業的苗生産の実際を学ぶ。		○	○	○	
		2 学 期 中 間 考 査						
	10							
		第4章 果実を利用する野菜の栽培	・トマトについて理解する。 ・ナスについて理解する。 ・ピーマンについて理解する。	64	○	○	○	レポート (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
期	11	第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培	キュウリ、温室メロン、キャベツ、ハクサイについて学ぶ。					
		2 学 期 期 末 考 査						

	12		・専攻の学習内容、実験 ・レタスについて学ぶ。 ・ネギについて学ぶ。		○	○	○	
三 学 期	1		・経営上の特性を理解する。	24	○	○	○	
			3 学 期 期 末 考 査					

計 140 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜について基礎的な知識や技術を体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとしている。	野菜に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決しようとしている。	野菜について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・栽培管理 ・文章による説明 ・式やグラフでの表現 ・観察・実験 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・論述やレポートの作成 ・発表、グループでの話し合い、 ・作品の制作や表現 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ノートやレポート等における記述 ・授業中の発言 ・自己評価や相互評価等の状況 などから、評価します。

5 担当者からの一言

野菜の授業（実習）を通して、生徒が主体的・継続的に生育状況を観察し、問題を発見したり、自ら調べたりして管理作業を工夫しようとする態度など、粘り強く栽培技術や実験・実習、加工・製造等を学ぼうとする姿勢が大切である。

教科(科目)	農業（総合実習）	単位数	3単位	学年(コース)	3学年野菜
使用教科書					
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2)農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会的貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
一学期	4	春夏野菜の栽培管理収穫	播種、ポット上げ、たい肥散布、基肥、定植、追肥、かん水、	26	○	○	○	
		接ぎ木等	敵芯、整枝、除草、病害虫防除、					
		キュウリ	販売実習、野菜の撤去等					
	5	トマト	・各野菜の栽培方法や管理技術を学ぶ。					
		ジャガイモ	・各野菜の収穫・調整方法を学ぶ。					
		ナス	・病害虫について学ぶ。					
		ピーマン	・栽培管理を記録する習慣を					
		スイートコーン						
		オクラ						
	6	アmanaガトウガラシ						

	7		身に付ける。					
		期 末 考 査						
二 学 期	8	秋野菜の栽培管理収穫 キャベツ ハクサイ ブロッコリー カリフラワー	播種 ポット上げ、たい肥散布、 基肥、定植、追肥、かん水、 敵芯、整枝、除草、病害虫防 除、	30	○	○	○	
	9	サトイモ ハウレンソウ ネギ	販売実習、野菜の撤去等 ・各野菜の栽培方法や管理技 術を学ぶ。					
	10	セルリー ニンニク サトイモ サツマイモ	・各野菜の収穫・調整方法を 学ぶ。 ・病害虫について学ぶ。					
	11	中玉トマト	・栽培管理を記録する習慣を 身に付ける。					
		期 末 考 査						
三 学 期	12	施設での栽培管理 ミニトマト 葉物野菜	・施設栽培の管理技術を学 ぶ。 ・露地栽培との違いを学ぶ。	14	○	○	○	
	1	接ぎ木育苗 ナス	接ぎ木育苗を行い、来春の準 備をする。					
	2	春夏野菜の播種栽培管理						
		学 年 末 考 査						
	3							

計 7 0 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	野菜の基本的な栽培管理など野菜に関する基本的な知識や技術を栽培実習において正しく技術を習得する。	野菜の特性と栽培管理などについて思考を深め、その生育状況に応じた栽培管理や課題を適切に判断するとともに、合理的に解決し、表現する能力を身につけている。	野菜の特性と栽培管理、生産性などに興味や関心を持ち、野菜の知識、技術の習得に意欲的に取り組むとともに、栽培実習を通じて主体的に取り組む態度を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果、レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・
--

6 担当者からの一言

実際に農場で作物を育て、日々成長する作物の調査・観察をととして作物から自分自身が学ぶ姿勢が大切となります。愛情を込めて作物を育て、積極的に作物へ関わって欲しいと思います。そして、農業の持つ魅力を自分自身の肌で感じ取ってもらいたいと思います。 (担当：)
--

教科(科目)	農業（生物活用）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年野菜
使用教科書	「生物活用」実教出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい労働観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) 農業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指してみずから学び、農業の振興や社会貢献に 主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
一学期	4 5	"第1章 生物活用の意義と役割 1 生物活用と意義と役割 2 生物活用とプロジェクト学習"	○園芸作物や社会動物の活用の重要性と生物の活用がもたらす人間への効用などの情報を収集し、適切に選択して活用させる。 ○生物活用を学ぶ目的を理解させる。 ○植物や園芸がもつさまざまな	32	○	○	○	

	6		まな効用について理解させる。					
		期 末 考 査						
	7	第2章園芸作物の栽培と活用	○動物や植物などを活用した療法について理解させた上で、生物を活用した活動との違いについても理解させる。	32	○	○	○	
	8	1 植物・園芸と人間生活						
	9	2 草花の栽培と活用						
	10	3 野菜・ハーブの栽培と活用"	○動物や植物を活用した交流活動の流れについて理解させる。					
	11	第4章 生物を活用した療法	○対象者の特徴をふまえた、交流活動の実施について理解させる。					
		1 生物を活用した療法						
		2 園芸療法						
		3 動物介在療法	○交流活動の資源や対象者の特徴をふまえた、交流活動の計画の立案や実施について理解させる。					
三 学 期		期 末 考 査						
	12	第5章 生物活用の実践	○交流活動のまとめを実施し、次回の実施に向けて思考を深められるようにさせる。	6	○	○	○	
		1 交流活動の心がまえ						
		2 交流活動の実際						
	1	学 年 末 考 査						

計70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	“園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する基礎的な知識を身に付け、生物活用の意義や役割と生活の質の向上の重要性を理解している。	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用に関する諸課題の解決と生物を活用することによる生活の質の向上を目指して思考を深め、基礎的な知識や技術を基に、諸課題を合理的に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	園芸作物や社会動物の育成及びこれらの活用について興味・関心を持ち、生物を活用する活動の現状や今日的な課題の改善と生活の質の向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・実習での成果、レポートの作成などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言 ・レポートの作成 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・実習での発言や取り組み態度 ・効率的・精確な実習 ・レポートの提出状況 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポートの記入・提出 ・レポート・課題の作成・提出 ・
--

6 担当者からの一言

園芸作物の活用方法を学び、それらを地域との交流活動に活かすことで栽培以外の農業の可能性について学んでいきます。また、交流活動をとおしてコミュニケーション能力等の向上を図ります。 (担当：)
--

教科(科目)	農業（作物）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年 生物資源科 野菜専攻
使用教科書	実教出版「作物」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、作物の生産と経営に必要な資質・能力をつぎのとおり育成することを目指す。 (1) 作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4 5	栽培管理	・種籾の準備：塩水選、温湯消毒、浸種、催芽 ・育苗：プールの作成、整地 ・水田準備：基肥散布、耕起	11	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		苗の生育						
		定期考査(1学期中間)		1	○	○		
	6 7	イネの移植	・田植え作業の実践 ・移植後の水管理 ・中干し、溝切り	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		本田の管理						
		生育調査						
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9	追肥、病害虫の防除		15	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	10	収穫と調製	・収量構成要素 - 単位面積あたりの植え付け株数 - 平均一株穂数 - 平均一穂もみ数 - 登熟歩合 - 玄米一粒重		○	○	○	

			・収穫、調整：コンバイン操作、乾燥、調整、袋詰め					
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10 11 12	品質と高価値化 収量調査 品質調査	・米の品質：完全米、不完全米 (腹白米、背白米、心白米等) ・米の食味調査	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1 2 3	栽培評価 稲作経営の特性 流通と経営	栽培の評価：結果と考察 稲作経営の特性：米の流通、新しい経営 を目指して	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 70時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・作物の生育と環境の調節及び栽培計画、管理、評価など作物の栽培と経営に関する基本的、体系的な知識を身に付け、作物の栽培、経営の特性と栽培技術の仕組みを理解している。	・作物の特性と栽培環境などから生育状態を多面的に考察し、その生育状態に応じた栽培管理を適切に判断できるようにしている。	・作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、栽培実習を通じて主体的かつ協働的に取り組むようにしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

作物（稲作）は新発田地域（新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町）の基幹的産業であり、最も基本的で大きな部分を占める分野です。イネの特性や栽培に適した環境を理解し、品質と生産性の向上を図るための知識と技術を身に付けます。

教科(科目)	農業（食品製造）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年（動物科学）
使用教科書	「食品製造」 実教出版				
副教材等					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

食品の製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点			備考
					知	思	主	
1 学 期	4	第1章 食品製造の意義と動向	・「食品」を正しく理解する ・食品製造の目的を学ぶ	4	○	○		製造実習に向けた基礎知識を習得させる。
		1 食品製造の意義	・食品の分類について学ぶ					
	5	2 食品産業の現状と動向	・食品の安全を守るための	8	○	○		
		第4章 食品加工と食品衛生	食品衛生の重要性を理解する。					
2 学 期		1 食品と食品衛生	・食品衛生行政のしくみを学ぶ。					
		2 食中毒	・食品衛生に関する法律について知る。					
		3 食品による危害と安全確保						
		4 食品添加物						

		単元小テスト		1	○	○		基礎知識を問う小テスト
	6	○穀類の加工 第7章 畜産物の加工 3 鶏卵の加工	・小麦粉菓子の製造実習を通して製造実習の心得や実習室の使用ルールを学習する。 ・鶏卵の構造と新鮮度測定 ・ゆで卵と温泉卵実習 ・マヨネーズ製造実習	4 8	○ ○	○ ○	○	授業の様子（行動確認） 実験実習の様子（行動確認） レポート・演習プリント （記述の確認）
		1 学期期末考査		1	○	○		
学 期	7 9 10	第7章 畜産物の加工 2 牛乳の加工	・牛乳の生産 ・牛乳の製造 ・生乳の低温殺菌実習 ・ヨーグルト製造実習	13	○ ○	○ ○	○	授業の様子（行動確認） 実験実習の様子（行動確認） レポート・演習プリント （記述の確認）
	11	第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工	・食肉処理と格付け （食肉センター見学）	8	○	○		授業の様子（行動確認） 実験実習の様子（行動確認） レポート・演習プリント （記述の確認）
	12	2 学期期末考査		1	○			
学 期	12 1 1	○穀類の加工 第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工	・デコレーションケーキ製造実習 ・豚肉加工品の製造実習 ・鶏加工品の製造実習	4 8	○ ○	○ ○	○ ○	授業の様子（行動確認） 実験実習の様子（行動確認） レポート・演習プリント （記述の確認）
	2	学年末考査		1	○	○		
	2 3	第3章 食品の変質と貯蔵 1 食品の変質とその原因 2 食品の貯蔵法	・食品が変質する原因を理解する。 ・変質した食品が、どのような	4	○	○		畜産加工品を販売するための基礎知識を習得させる。

		第5章 食品の包装と表示	なようすを示すかを学ぶ。	5	○	○		
		1 食品の包装	・食品包装の目的を理解し、					
		2 加工食品の表示制度	その種類を知る。					
			・包装技術を学ぶ					

計 70 時間 (50分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・食品製造について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている	・食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付けている。	・食品や食品加工について理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的に取り組む態度を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・演習による製造技術の習得状況 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 中間考査 期末・学年末考査) ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・製造実習態度・姿勢 ・ペーパーテストの分析 (小テスト 期末・学年末考査) ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポート、提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・製造実習態度・姿勢 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・演習プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・演習プリントやレポートなどの提出物があります。 ・ICTを活用した課題や提出物があります。 ・長期休業中の課題は別途指示します。

6 担当者からの一言

動物専攻で生産する畜産物の食品として特性を学ぶとともに、どのような畜産物生産を目指すべきかを実習を通じて体験的に学んで行きます。この科目の学習を3年次からの学習に役立ててもらいたいと思います。そのためにも意欲を持って学んで欲しいと思います。 (担当：村山)

教科(科目)	農業（農業機械）	単位数	2単位	学年 (コース)	3学年 生物資源科（作物専攻）
使用教科書	実教出版「農業機械」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- 農業機械化の意義と役割、またその利用と現状を把握する。
- 農業機械の操作に伴い、道路交通法等を学び基本運転操作を身につけ、事故防止に努める。
- 様々な機械の作業を通じて機械名と作業手順を把握する。
- 内燃機関・電動機について学び、使用燃料と動力伝達について理解する。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4 5	農業機械の役割 作業機 トラクタ	・耕うん、整地用機械 ・たねまき機、育苗用機械 ・移植機の基本操作 ・除草機 ・作業機の装着 ・乗用トラクタの種類と基本操作	12	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	6 7	原動機 トラクタ 作業機	・4サイクルガソリンエンジンの作動原理 ・4サイクルガソリンエンジ	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)

			ンの構造 ・そのほかのエンジン ・燃料と潤滑油 ・電動機の種類と回転原理 ・三相誘導電動機の取扱い ・点検調整 ・歩行用トラクタ ・乗用トラクタの種類と基本 操作 ・飼料作用収穫・調整機械					
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9 10	トラクタ 作業機 農業機械と安全	・けん引の基本操作 ・稲作用収穫、調整機械の種類と利用 ・コンバイン及びもみすり機の構造、特徴 ・耕耘整地用機械 ・飼料用収穫、調整機械 ・育成管理用機械 ・畑作用収穫、調整機械 ・農業機械の整備と保守 ・ガス溶接、アーク溶接の利点と取扱い	15	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10 11 12	作業機 農業機械と安全	・運搬用機械の種類と操作方 法 ・環境調節用機械の利点と構 造 ・農作業による事故と健康障 害	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1 2 3	農業生産と農業機械の利 用	・農業生産における農業機械 の利点	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業機械に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業機械の意義や役割を理解している。 農業機械の取扱いと正確・安全な運転操作を身に付け、その技術を適切に活用している。	農業機械の維持管理に必要な知識と技術を基に、農業機械を利用する者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	農業機械に関する諸課題について興味・関心をもち、その利点・効果を利用して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

農業機械は、作物栽培において重要な分野です。作物の品質と生産性の向上を図り、農業機械の操作と事故を防ぐための知識と技術を身に付けます

教科(科目)	農業（農業機械）	単位数	2単位	学年 (コース)	3学年 生物資源科（動物専攻）
使用教科書	実教出版「農業機械」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をとおして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- 農業機械化の意義と役割、またその利用と現状を把握する。
- 農業機械の操作に伴い、道路交通法等を学び基本運転操作を身につけ、事故防止に努める。
- 様々な機械の作業を通じて機械名と作業手順を把握する。
- 内燃機関・電動機について学び、使用燃料と動力伝達について理解する。

3 学習計画

※知…知識・技術、思…思考・判断・表現、主…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※			備考
					知	思	主	
1	4 5	農業機械の役割 作業機 トラクタ	・ 耕うん、整地用機械 ・ たねまき機、育苗用機械 ・ 移植機の基本操作 ・ 除草機 ・ 作業機の装着 ・ 乗用トラクタの種類と基本操作	12	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
	6 7	原動機 トラクタ 作業機	・ 4サイクルガソリンエンジンの作動原理 ・ 4サイクルガソリンエンジ	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)

			ンの構造 ・そのほかのエンジン ・燃料と潤滑油 ・電動機の種類と回転原理 ・三相誘導電動機の取扱い ・点検調整 ・歩行用トラクタ ・乗用トラクタの種類と基本 操作 ・飼料作用収穫・調整機械					
		定期考査(1学期末)		1	○	○		
2	8 9 10	トラクタ 作業機 農業機械と安全	・けん引の基本操作 ・稲作用収穫、調整機械の種類と利用 ・コンバイン及びもみすり機の構造、特徴 ・耕耘整地用機械 ・飼料用収穫、調整機械 ・育成管理用機械 ・畑作用収穫、調整機械 ・農業機械の整備と保守 ・ガス溶接、アーク溶接の利点と取扱い	15	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期中間)		1	○	○		
	10 11 12	作業機 農業機械と安全	・運搬用機械の種類と操作方 法 ・環境調節用機械の利点と構 造 ・農作業による事故と健康障 害	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(2学期末)		1	○	○		
3	1 2 3	農業生産と農業機械の利 用	・農業生産における農業機械 の利点	13	○	○	○	レポート・プリント (記述の確認) 実習の様子 (行動の確認)
		定期考査(学年末)		1	○	○		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	農業機械に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業機械の意義や役割を理解している。 農業機械の取扱いと正確・安全な運転操作を身に付け、その技術を適切に活用している。	農業機械の維持管理に必要な知識と技術を基に、農業機械を利用する者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	農業機械に関する諸課題について興味・関心をもち、その利点・効果を利用して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポート、などの提出物の内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・振り返りシートや自己評価票などの分析 ・授業中の発言、実習などの活動の取り組みを観察 ・プリントやレポートなどの提出物の内容の確認 などから、評価します。

5 課題・提出物等

- ・ プリントやレポートなどの提出物があります。
- ・ 長期休業中の栽培管理実習・調査等があります。

6 担当者からの一言

農業機械は、作物栽培において重要な分野です。作物の品質と生産性の向上を図り、農業機械の操作と事故を防ぐための知識と技術を身に付けます